

乳がんについて

11人に1人の割合 ～乳がんは身近な病気～

「わたしの乳房、大丈夫？」

最近、「乳がん」という言葉をよく耳にするようになりました。

日本人女性の12人に1人が乳がんにかかることとされ、毎年全国で8万人の方が乳がんと診断されています。

乳がんは年々増えています

日本では、戦後から「乳がん」が増加し、

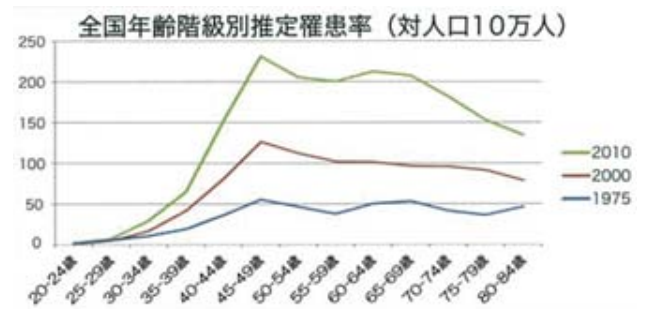
約10年前から日本人女性がかかる

「がん」の第1位となりました。

今では約12人に1人が乳がんにかかると言われています。

乳がんは、40歳代から60歳代まで多く発生します。

乳がんは、もはや「他人事」の病気ではないのです。



※資料:国立がんセンター「年齢別/乳がんの罹患率(新たにがんが発見される人数)」

「もしかしたら、わたしの胸にも乳がんが…？」

まずは乳房を触ってみることから始めてみましょう。乳がんはご自身で注意深く触ってみることで、早期でもみつかることができる可能性が高い病気です。でも、しこりにならない、触って分かりにくい乳がんもあります。そういったタイプの乳がんを早い段階で見つけるためには専門の医療機関で検診を受けることも大切です。

現在、40歳を過ぎたら2年に1回の視触診と「マンモグラフィ」による検診が勧められていますが、20代、30代の乳がんも少なくありません。以下のような方は、より早めにスタートし、こまめにチェックを行いましょう。

- ・ご家族に乳がんにかかった人がいる
- ・出産や授乳経験がない、または初産が高齢である
- ・ホルモン補充療法を受けている
- ・ピルを長期使用している

また、しこりに気づいた場合や乳頭から血液が混じった分泌液が出る、乳房のくぼみやひきつれ、変形してきたなどの症状がある場合には、怖がらずに乳腺専門の医療機関を受診しましょう。

乳がんは早期発見で90%以上が治る病気だから「乳がん検診」が大切なのです

乳がんはきちんと治療すれば約70%の方は治癒します。

早期であれば90%、しこりになる前(非浸潤癌)で発見すれば、ほぼ100%が治癒します。

あなた自身のため、大切な誰かのために、
乳がん検診を受けてください